2019年5月

　平成も終わり、新しい元号、令和がスタートしました。令和も戦争のない平和な元号であってほしいと願います。
　5月に入り朝晩の寒さも和らぎ、過ごしやすい季節になりましたね。人だけでなく、動物たちも一日を通して、過ごしやすくなってきたのではないでしょうか。

　私自身、元々は猫よりも犬の方が好きでしたが、昨今の猫ブームにハマりまして、猫も犬と同じくらい好きになりました。ってなわけで・・・今回は、猫が登場する本をご紹介したいと思います。
　昨年映画にもなり、話題になりました『旅猫リポート』 有川浩著 講談社 2017 です。この本はサトル（宮脇悟）とナナ（しっぽが数字の7に見える猫）の絆をテーマにしたお話です。ちなみに、名前はナナだけど男の子です。野良猫のナナは、サトルと五年間一緒に暮らしたのですが、サトルのある事情でナナの新しい飼い主を探す旅に出ます。その旅で、サトルは旧友たちと久しぶりに会うことになります。
　前半は、サトルとナナの掛け合いがおもしろく、微笑ましく思えました。時折、子どもの頃の回想が入っていて、全体像がイメージしやすくなっています。
　後半では、ナナにとって良い飼い主とめぐり逢えたらいいのにと思いながら、だんだん読み進んでいくうちに、こういう展開が待っていたのかと気付かされます。ちなみに私は、終盤けっこう泣いてしまい、腫れた目で一日過ごしたのを覚えています（苦笑）

　この本を読んでいると、ナナの猫目線で思っていることが書かれているので、現実の猫たちもこんな風に感じてくれていたらいいなぁと思ってしまいます。
　ナナが私の中では、魔女の宅急便に出てくる黒猫ジジと少し性格が似ている猫だなと感じました。普段は落ち着いていてしっかり者だけど、時には好奇心旺盛なところがそう感じてしまいました。
　本当は手放したくないけど手放さなくてはならない状況のサトルと、離れても平気と強がってはいるけれどサトルと本当は繋がっていたいナナの心境・旅先の風景も細かく描写されていて、有川さんの作品って素敵だなと改めて感じることができました。

　まだこの本を読んでいない方、映画は観たけど本では読んでいない方、猫好きな方、感動作品を読みたいと思っている方、ぜひこの本を読んでナナの世界観を味わっていただきたいです！！猫がもっと好きになれる作品です！

【著者紹介】
有川 浩（アリカワ ヒロ）
高知県生まれ。２００４年、『塩の街』でデビュー。「図書館戦争」シリーズをはじめ、『阪急電車』『県庁おもてなし課』『三匹のおっさん』『空飛ぶ広報室』『明日の子供たち』『キャロリング』『アンマーとぼくら』など著書多数。演劇ユニット「スカイロケット」を結成し、演劇界へも挑戦の幅を広げている。